

2004年 1月1日 初詣礼拝

司 会 井沢 豊 師

奏 楽

祈 禱 高木 國男 師

使徒信条

賛 美 聖歌480 (聖霊様あなたを)
(栄光から栄光へと)
(あなたのみ前には)

聖 書 詩篇16篇1～11節

音 楽 ベアンテ・ポーマン師

メッセージ 「満ちあふれる喜び」 大川 従道 牧師

賛 美 明日はどんな日か(献金)
主の祈り
祝 禱



何かしら醜さを感じる人がいます。教養がないわけではない、性格が悪いわけでもない。むしろ細やかな思いやり、洗練された言葉遣い、非の打ちようがないのに何か醜さを感じる人がいます。そういう人に共通しているのは、表面には出さないようにはしていますが、勝利者の意識を持っていることです。この場合、勝つとは人に勝つこと、小さな勝利に酔っていることのその浅ましさ、醜さなのでしょう。美しく生きるためには、どうしても勝てないものを相手に生きねばなりません。信と美とが結びつく所以の一つはここにありましょう。

新年早々堅い文章で申し訳ない。どうも藤木正三氏の言葉は難解である。おもちがたくなる前に、こたつに入り込んで瞑想するにはふさわしいそれかもしれない。

「どうしても勝てない存在」を相手に対座することぬきには、真の美は出て来ないのかもしれない。適当に勝って、否、勝ちまくって、打ち負かされることを体験しないままで、口をぬぐって、人生の日々を送ってしまう。それでも成功者であり、幸福者であるのかもしれない。しかし、心の深いところで納得していない。それを認めることが怖いかもしれない。正直でないのかもしれない。そのあたりが問題だ。

今年は「絶対者なるお方」「どうしても勝てない存在」とすもうを取ったヤコブのように、「私を祝福して下さらなければ去らせません」と正面から問うてみよう。聖書の世界は深い。だれにでも分かるが、だれにでも解からない領域がある。「どうしても勝てない存在」に謙って助けを乞うことなしには、永遠に悟れないであろう。そのような生き方が是とされるはずがない。勿論、主のみ心ではない。真実に求めたら開かれる世界がある。それが祈りである。

それにしても、今年の聖句はすばらしい。「楽ではないが、楽しい人生」を味わいましょう。必ず、主が「しるし」をもって励まして下さいます。

『主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。』

(マルコ十六の二〇)

明けまして、おめでとうございます。
心から「三拍子の祝福」を祈ります。

2004年元旦 主任牧師 大川 従道・道子
スタッフ一同、役員会一同

【大和ニュース】

- ・本日は、ポーマン師御夫妻をお迎えできて感謝致します。
- ・本日の東京集会は、初詣礼拝(3時)、明日は羽鳥明師(3時)です。
- ・大和の土曜聖日礼拝(夜8時)に、中島哲夫師が来られます。元住吉会の幹部。「親分はイエス様」の映画製作者です。ご期待下さい。
- ・来週の日曜第3礼拝には、元東京交響楽団首席バイオリニストのジョン・チャヌ氏が来られます。お誘いあわせてご出席ください。